

マーケットの動き (2024年1月9日～1月12日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

12月の日銀金融政策決定会合以降、能登半島地震などをを受け早期政策修正観測が後退するなか、長期金利は低下基調で推移しました。ただ、10年・30年国債入札の軟調な結果を受け、一時金利は上昇する場面もありました。

クレジット市場は、買いが優勢となり需給の引き締まりがみられました。

投資環境見通し (2024年1月)

国内長期金利は低下一巡後、レンジ内での動き

12月の日銀金融政策決定会合を通過して早期の政策修正観測は一旦後退しましたが、1月会合において政策修正を行う可能性も残るとの見方もあります。国内長期金利は低下一巡後、ゼロ金利政策解除の時期を注視しつつ、当面はレンジ内で推移するとみえています。

	1月12日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (日本、%) (変動幅)	0.59	▲0.02	▲0.16	0.12	0.08
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	370.47	0.38%	1.46%	▲0.82%	1.73%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202401_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

(期間：2022年12月30日～2024年1月12日)



NOMURA-BPI総合指数の推移

(期間：2022年12月30日～2024年1月12日)



※2022年12月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成